

一般質問・質疑

三月七日と十日の本会議では、まず、六名の議員が会派を代表して質問を行った後、十四名の議員が一般質問に立ち、平成二十年度当初予算案および中心市街地活性化や後期高齢者医療に関することなどについて、市の見解を求めました。

なお、一般質問の発言者と質問項目の一覧は下段に、主な内容は四面から六面に掲載しています。

(代表質問の発言者と質問項目、その内容は二・三面に掲載)

発言者一覧

—発言順— () は会派名

新田 正彦(市民クラブ)

- ①学校・地域・家庭との連携 ②公教育の役割と教育委員会の責任 ③漁船の安全操業

辻本 達也(日本共産党)

- ①明石市総合交通計画に係る諸課題 ②中心市街地活性化プロジェクト ③音楽を通じた国際交流の推進 ④消防行政 ⑤和坂斎場

富田 賢治(民主連合)

- ①明石市歌 ②市長及び特別職の退職金 ③20年度予算(案)と今後の財政 ④水産業費 ⑤教育行政 ⑥男女共同参画 ⑦ドライブレコーダー ⑧安全安心の取り組み ⑨大明石4号線(社会保険事務所前)歩道整備

三好 宏(新 政 会)

- ①明石市産業振興基本条例 ②明石ブランドの積極的な全国発信 ③西明石南地域の再整備

佐々木 敏(公 明 党)

- ①プラスチック製容器包装分別収集の全市展開に向けた準備 ②よりよい高齢者・障害者の福祉施設を目指して ③国民健康保険料の滞納者へセーフティネットの構築を ④より便利な市民病院に ⑤救急搬送時間の短縮を目指して

中西 礼 皇(新風次世代)

- ①乳幼児等医療費助成制度 ②廃食用油のリサイクル事業

辰 巳 浩 司(明石の風)

- ①中心市街地活性化 ②明石海峡大橋10周年を迎えた大蔵海岸 ③野球によるまちの賑わいづくり

遠 藤 恒 司(市民クラブ)

- ①平成20年新年度予算と市長の所信 ②財源確保の諸施策 ③人事管理 ④行政改革 ⑤行政評価制度 ⑥本市市民病院の産婦人科の分娩廃止 ⑦たこバスの拡充 ⑧障害者福祉金の廃止 ⑨新駅の取り組み

椿 野 利 恵(日本共産党)

- ①健康づくり ②食の安全、地産地消の推進 ③全国学力一斉テスト ④放課後児童クラブ

千 住 啓 介(新 政 会)

- ①人づくりへのこだわり ②小中学校における学力向上施策 ③集団一斉登下校のシステム化

絹 川 和 之(公 明 党)

- ①議案第1号 明石市後期高齢者医療に関する条例制定 ②議案第51号 平成20年度明石市病院事業会計予算 ③心豊かな明石を目指す本市の教育施策 ④開かずの踏切、自動車ボトルネック踏切の解消策

木 下 康 子(新風次世代)

- ①視覚障害者(児)のための情報バリアフリー ②地域福祉の推進と明石市社会福祉協議会 ③プラスチック製容器包装の分別収集 ④水上バイクの走行 ⑤明石市立明石商業高校の(仮称)会計科、スポーツ科の開設

北 川 貴 則(市民クラブ)

- ①CO₂削減 ②行財政改革の積極的な推進 ③障害者福祉金廃止と福祉行政 ④子育て支援 ⑤食の安全と食育と地産地消

山 根 金 造(新風次世代)

- ①明石市長長期総合計画 ②市長のマニフェストと長期総合計画 ③雨水利用(総合治水) ④下水処理場のネットワーク化

音楽で国際交流

ロシア連邦サハ共和国 職員派遣も検討

問 なぜ、サハ高等音楽院とヤクーツク歌劇場と音楽を通じた国際交流を推進するのか。連携協力に至った経緯と今後の取り組みについて聞きたい。

答 本市出身の指揮者、山本郁夫氏がロシア連邦サハ共和国立ヤクーツク歌劇場の正指揮者に就任されていることから、同歌劇場やサハ高等音楽院の関係者と交流を積み重ねてきた。そして、本年二月六日に市長がヤクーツク市を訪問し、同歌劇場、同音楽院との音楽を通じた連携協力についての覚書を締結した。



連携協力の覚書を締結(ヤクーツク歌劇場)

今後、国際交流の推進や音楽のあふれるまちづくりの一環として、市民会館で同歌劇場の音楽家による公演を実施して広く市民に音楽鑑賞の機会を提供することや、同音楽院の指導者による子どもたちへの指導なども検討していきたい。

また、同音楽院への留学生の派遣や、文化振興のための職員派遣など人的な交流も検討していく考えだ。

市は、使用済み天ぷら油を回収して、軽油に代わる燃料となるバイオディーゼル燃料に精製する廃食用油リサイクル事業を開始するとのことだが、その効果について聞きたい。

答 バイオディーゼル燃料は、軽油に比べて二酸化炭素の排出を抑制するという利点がある。学校給食と一般家庭から出る使用済み天ぷら油を回収して、年間約四万リットルの燃料を精製し、市のごみ収集車の燃料として利用することで、約五百万円の燃料費の削減と約百トンの二酸化炭素の排出抑制が見込んでいる。

考えを深め、道徳的実践力を身につけるよう取り組んでいきたいと考えている。

また、各学校では、毎年道徳の時間の全体計画を作成し、児童・生徒の実態や地域性に応じた道徳教育を展開しており、教科書に代わる副読本や自作の資料を活用しながら、心の教育を充実させていくことだ。

市民病院

麻酔科医の確保に努力

確保に努力

問 医療の安全性向上のため、手術中の麻酔は麻酔科医が担当することが必要とされているが、現在の一般病院における全身麻酔の約30%は外科系医師による

行われていると言われている。麻酔科医の体制について市民病院の見解を聞きたい。

答 手術患者の安全に大きくかわるべき麻酔科医が全国的に不足している。これは麻酔科医の活動領域の拡大や女性医師の増加、深夜や緊急の手術など厳しい労働環境などが原因と考えられている。

本院では現在、常勤三名、非常勤一名の麻酔科医を確保しているが、十九年度末に一名が退職予定で、何度も大学の医局に派遣依頼を行い、ようやく非常勤医師の確保ができたところだ。麻酔科医は必要不可欠であり、引き続き医師の確保に努めていきたい。

明石ブランドの確立 協議会の立ち上げ 積極的に全国発信

問 市長公約の一つに掲げられている、明石ブランド協議会を立ち上げ、明石の特産を全国へ発信することについての考えを聞きたい。

答 明石ブランドを議論する上では、我々のまちをどのようにして

きたいのか、どのようなまちづくりを進めていくのか、十分協議していくことがブランドづくりの第一歩であると考えている。今後議論を重ね、まちづくりの概念を明石ブランドとして確立し、その考え方を行政や民間、市民の活動に生かすことで、明石の誇りや価値観を具現化した競争力のある商品やサービスが、輝く明石ブランドとして確立するものだと信じている。

二十年度では明石ブランド協議会を立ち上げるなど、明石ブランドを確立し、積極的に全国発信を進めるため、体制強化を図りたいと考えている。



明石特産・名物を全国へ

子どもの道徳教育 趣向を凝らした 授業を展開

問 徳育の推進が重要と考えるが、本市の道徳教育についての見解は。

答 子どもたちに基本的な生活習慣を確立させ、人間として持つべき最低限の規範意識を確実に身につけさせることは大変重要であると感じている。そのため、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことを目標に、児童・生徒が自己の生き方について

今後とも地域の歴史、文化等を題材にした教材の開発や魅力ある授業づくりを目指し、子どもたちの心に響く道徳教育を推進していきたい。